

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3372800189-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が、住み慣れた環境の下で、伝統行事に参加・見学することで昔の記憶を呼び戻したり、季節の移ろいを肌で感じ取れるよう沢山の催し物や青空市などにも出掛け気分転換を図り地域の方々とのふれあいを大切にしています。ホールから続くウッドデッキでは、食事を楽しんだりお茶を飲んだりと開放的で明るい雰囲気作りにも力をいれてます。また、医療面においては、ご利用者様やご家族様が安心して日々の生活が送れるよう隣接した協力病院と連携を図り対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長が前職で経験した良い点を介護に取り入れ、全職員が一丸となって利用者の思いに応えている。自分の子供と一緒に職場で働かせたいと願い出る職員の希望を聞き入れ、3組の親子が働いている。施設長は老人福祉だけでなく福祉全般に、自分達が出来た事を協力したいとの考えを持っており、ボランティアで知り合った児童養護施設の子供たちを、事業所に招待して交流を深め喜ばれている。今年度は外出100%・慰問100%を目標に掲げ、利用者は行事や季節の移り変わりを感じながら、毎日を楽しく過している。利用者職員が一つの家族のような温かい事業所で、心地良い時間を過ごすことが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議などのミーティングの機会を設けて、理念を共有し実践できるようにしている。	理念は玄関や事務所に入って直ぐ目に付く場所に掲示してある。常に寄り添った介護や医療での安心・安全、人生の先輩として敬うという、理念に沿った介護に感動した。年度初めに職員共同で月間目標も立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事など積極的に参加又地域の方に慰問をお願いし交流を深めている。	本年度は慰問100%を目標に実行に努めている。職員が色々な方に声掛けした結果、保育園・小学校・中学校・高校・バレーンアート・マジックショー・エレキギター等の訪問があり、利用者に喜ばれている。	老人福祉だけでなく、児童福祉を含め福祉全体の支援や交流を目指している。今後は楽しみである。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の研修に参加しブースを使っての施設紹介をし地域の人々に向け理解を深められるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態や活動などの報告を行い会議で出た意見や要望については、スタッフ間で話し合いサービスの向上につなげている。	運営推進会議と同日に家族会・避難訓練等を実施し、両方に参加して頂き、感想を伺っている。会議の資料は、実施した行事の写真を掲載し、運営内容を分かりやすく伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議や書類の提出の際に情報交換を行ったり、保健福祉課の担当者にはいつでも相談援助していただく等連携に努めている。	役場から依頼される事は全て引き受けたり、書類も郵送せず直接手渡したり、関係は良好である。認知症サポーターや研修の講師も引き受け、多方面で活躍している。役場からは絶大な信頼が寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理委員会を設置し、定期的な会議や勉強会を行い理解を深めながらケアに取り組んでいる。	日々のケアの中で、身体拘束に該当する言動があった場合は、その都度注意し指導している。職員は正しく理解を得ている。利用者の命に係わる場合は、家族に選択肢をいくつか提案し、話し合っ決めていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止についての理解を深めながら、日々実践できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり勉強会を行い理解を深めている。利用者様の中に成年後見人制度を利用されている方がおり、学べる機会を持つことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面を読みながら、わかり易い説明を心掛けている。疑問や不安に思われる点についても理解、納得がいくまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、近況報告を行い、その時に意見や要望も聞くようにしている。要望があれば会議などで話し合い反映させるようにしている。	毎月の支払いは家族に訪問する機会を設ける為に直接事業所に持参してもらっている。訪問して頂いた際に、現在の状況を伝え、要望を伺っている。家族が直接言葉に表さなくても、言動から思いを汲み取り、希望を叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフとのコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くようにしている。また、ユニット会議などでその意見が反映できるように努めている。	職員の何気ない言葉からも意見が言いやすい職場だと実感した。施設長が職員のバックグラウンドを含め全てを受け留め接しているの、何でも話せる環境である。家族の様な人間関係は、利用者にも安心感を与えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	指導、助言をその都度行っている。職員の家庭の事情なども考慮しながら勤務が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修会への参加や、資格取得の為にスキルアップも積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所や町主催なども含め、研修会に出来るだけ参加することで、情報交換やネットワークづくりを行いサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴や心身の状況などを把握し、本人の要望を聞きながら、安心して生活が送れるように馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望を聞き話し合いをしながら、より良い関係づくりやサービスの提供が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び、家族の要望を確認、把握しその人にあつた必要なサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている機能を発揮してもらいながら、人生の先輩として日々の生活の中でいろいろ教えてもらったり一緒に作業しながら良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の状態を報告したり、行事への参加を促すことで、本人と家族の絆を大切に出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近所の方などの面会もあり、馴染みの人との関係も継続出来ている。また、地域行事へ参加したり行きたい場所へ出掛けられる様支援も行っている。	職員が地域のイベント情報を大小問わず多方面から収集し、利用者と一緒に参加しているので、顔見知りや家族と会う機会が多い。友人や隣人もよく遊びに来てくれる。利用者の希望で自宅に帰ったり、墓参りに出かけられる様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に楽しく過ごせるような場面作りや、気の合う利用者同士で関わりが持てるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関などへ面会に行ったり、家族からの相談にも随時対応出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や表情から本人の思いや希望をくみ取るよう努力している。家族の協力を仰ぐこともある。	常に寄り添う介護で思いを直接受け止めている。職員が利用者の思いに気付いていない場合は、相手の立場に立って考えるようにその都度指導している。職員は更に相手の気持ちに気付ける人になりたいと願っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集をし把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や関係者などから日々の生活のリズムや心身の状態を聞き、把握し生活記録へ記載する事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をもとに話し合い、その意見を反映させながら介護計画を立てている。スタッフ全員でカンファレンスやモニタリングを行い作成するようにしている。	モニタリングを2カ月に1回行い、常に現状に即した介護計画の作成を心がけている。会議などを活用し、職員の意見を吸い上げ計画に反映させている。各居室にケアプランを掲示することで、職員や家族は目標を再認識出来、利用者は常に安心した介護が受けられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の状態や変化を記入すると共に、内容によっては色を変えたり枠で囲むなどして誰が見てもわかり易い工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加した役場の方や地域住民の方々との情報交換をしながら、利用者が安心した暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および以前からのかかりつけ医への受診は継続している。また週1回、提携しているかかりつけ医の往診もしている。	隣接の協力医が週に一度往診してくれているが、午前の診療が終了した休憩時にも度々看護師同伴で訪問してくれ、利用者一人ひとりに声をかけてくれている。24時間いつでも連絡可能な体制でもあり、利用者・家族・職員の安心・安全が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、特変事などには報告、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など医療機関へは必要な情報提供を行い、スムーズに治療が行われるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には十分な説明を行い理解をいただいている。状態に変化があった場合には、その都度家族や主治医と話し合いを行い早急に対応出来るように支援している。	対応が難しい鼻腔経管栄養の利用者を三人受け入れている。今年度初めて看取りを行い、職員一丸となって、希望に最大限添った対応を行った。日々の状況を記載し、家族も自分たちの思いをしたためたノートに、「祖母が幸せな時を過ごすことが出来た」と書かれており、その言葉を励みに今後も前向きに取り組みたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに基づいた対応が出来るように勉強会を行い、実践で活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成しており、年2回の避難訓練を実施している。消防署、役場、地域住民の方にも参加していただいている。	居室の表札に色分けしたシールを貼り、避難誘導がスムーズにいける工夫をしている。役場からの依頼で消防署で認知症サポート講習を行ったり、職員が消防団に入団したりと協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応を心掛けながらケアを行っている。特に言葉かけには注意しているが十分で無い時もあるため、注意し努力していきたいと思う。	挨拶の仕方から立ち居振舞いまで、礼儀を徹底的に指導しているので、接客レベルが高い。排泄に失敗した際も、職員同士がアイコンタクトで合図し、さりげなくトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞き、出来る限り自己決定や支援が出来るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日々の流れは決まっているが、心身の状況や、その日の体調に応じた個別対応をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ない方にはスタッフがその人らしいコーディネートを考え支援している。2ヶ月に1回は訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には業者に委託しているが、週に1回は利用者に食べたいメニューを聞き、リクエストに答えるようにしている。	毎週水曜日は、利用者一人ひとりに食べたい物を聞いて、希望を取り入れている。社長が事業所の敷地で作る野菜が食卓に上ることも多い。何かある度に職員がケーキを手作りして利用者に喜ばれている。朝食は職員が心を込めて手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ食やトロミの活用など個々に合わせた食事の支援を行っている。水分は食事以外にもこまめにとってもらえるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口腔ケアを行っている。出来ない方にはスタッフが介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を把握し、声掛けや介助を行っている。	夜間はおむつやポータブルトイレを使用している方もいるが、日中は紙パンツを使用し自立支援を促している。個々の習慣や状態を把握しているので、個別の排泄支援が行えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、出来るだけ食事や水分で対応できるよう取り組んでいるが、便秘のひどい方には薬を使つてのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているがその日の状態や気分に応じて、別の日でも本人の希望により入浴出来る様にしている。夜間浴も行っている。	重度の方は二人体制で日中入浴を行い、軽度の方は夜間入浴で対応しているが、利用者の思いを大切に、希望する時間帯に入浴してもらっている。介護現場の中でも労力がかかる入浴介助だが、予定人数が増えなくても苦にすることなく気持ちよく対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせ、何時でも休息や入眠が出来るようにしている。室温や環境にも配慮し安心感を持ってもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ずつのケースに分けて管理している。状態や処方内容に変化があった場合は業務日誌に記載し周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、お膳拭きなど主婦をしていた経験を活かし、役割をもってやっていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事では戸外へ出掛けられる様計画を立てている。また、買い物や散歩などを行ったり、家族の協力を得て、いつでも外出や外泊が出来るように支援をしている。	本年度は外出100%を目標に有言実行している。レク委員が色々なイベント情報を収集して企画し、ほぼ毎週外出しているため、段取りもスムーズとなり、思い立ったら出掛けている。医療行為が必要な重度の方も含め、花見には全利用者が参加し喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、希望に応じて買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話が出来るようにしている。手紙やはがきなどのやり取りも何時でも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置している。ホールにはイベント時に撮った写真を貼ったり、花を飾ったりして居心地よく過ごしてもらえるようにしている。	トイレには暖房器具を設置し、居間には加湿器を置き、アロマのお香を焚き、居心地よい空間作りを心掛けている。見渡す限りに行事の写真を貼り、内容に沿った柄の紙を使用して題名を書き、楽しかった思い出がいつでも思いだせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には長椅子を設置し、いつでも気軽に誰とでも過ごせるような空間づくりを提供出来るよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビなどを自由にもちこんでいただき、その人らしい居心地のいい部屋作りになるよう工夫している。	自宅と同じ状態で過ぎて欲しいと考え、筆筒以外は使い慣れた家具を持参してもらっている。どの居室も窓が広く、暖かい日差しが差し込んでくる。目の前の幼稚園からは、園児の笑い声も聞こえてくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど見て分かる工夫をしている。環境整備にも努め、安全面の工夫に取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3372800189-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が、住み慣れた環境の下で、伝統行事に参加・見学することで昔の記憶を呼び戻したり、季節の移ろいを肌で感じ取れるよう沢山の催し物や青空市などにも出掛け気分転換を図り地域の方々とのふれあいを大切にしています。ホールから続くウッドデッキでは、食事を楽しんだりお茶を飲んだりと開放的で明るい雰囲気作りにも力をいれてます。また、医療面においては、ご利用者様やご家族様が安心して日々の生活が送れるよう隣接した協力病院と連携を図り対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議などのミーティングの機会を設けて、理念を共有し実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事など積極的に参加又地域の方に慰問をお願いし交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の研修に参加しブースを使っての施設紹介をし地域の人々に向け理解を深められるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態や活動などの報告を行い会議で出た意見や要望については、スタッフ間で話し合いサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議や書類の提出の際に情報交換を行ったり、保健福祉課の担当者にはいつでも相談援助していただく等連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理委員会を設置し、定期的な会議や勉強会を行い理解を深めながらケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止についての理解を深めながら、日々実践できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり勉強会を行い理解を深めている。利用者様の中に成年後見人制度を利用されている方がおり、学べる機会を持つことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面を読みながら、わかり易い説明を心掛けている。疑問や不安に思われる点についても理解、納得がいくまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、近況報告を行い、その時に意見や要望も聞くようにしている。要望があれば会議などで話し合い反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフとのコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くようにしている。また、ユニット会議などでその意見が反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	指導、助言をその都度行っている。職員の家庭の事情なども考慮しながら勤務が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修会への参加や、資格取得の為にスキルアップも積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所や町主催なども含め、研修会に出来るだけ参加することで、情報交換やネットワークづくりを行いサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴や心身の状況などを把握し、本人の要望を聞きながら、安心して生活が送れるように馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望を聞き話し合いをしながら、より良い関係づくりやサービスの提供が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び、家族の要望を確認、把握しその人にあつた必要なサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている機能を発揮してもらいながら、人生の先輩として日々の生活の中でいろいろ教えてもらったり一緒に作業しながら良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の状態を報告したり、行事への参加を促すことで、本人と家族の絆を大切に出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近所の方などの面会もあり、馴染みの人との関係も継続出来ている。また、地域行事へ参加したり行きたい場所へ出掛けられる様支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に楽しく過ごせるような場面作りや、気の合う利用者同士で関わりが持てるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関などへ面会に行ったり、家族からの相談にも随時対応出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や表情から本人の思いや希望をくみ取るよう努力している。家族の協力を仰ぐこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集をし把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や関係者などから日々の生活のリズムや心身の状態を聞き、把握し生活記録へ記載する事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をもとに話し合い、その意見を反映させながら介護計画を立てている。スタッフ全員でカンファレンスやモニタリングを行い作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の状態や変化を記入すると共に、内容によっては色を変えたり枠で囲むなどして誰が見てもわかり易い工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加した役場の方や地域住民の方々との情報交換をしながら、利用者が安心した暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および以前からのかかりつけ医への受診は継続している。また週1回、提携しているかかりつけ医の往診もいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、特変事などには報告、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など医療機関へは必要な情報提供を行い、スムーズに治療が行われるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には十分な説明を行い理解をいただいている。状態に変化があった場合には、その都度家族や主治医と話し合いを行い早急に対応出来るように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに基づいた対応が出来るように勉強会を行い、実践で活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成しており、年2回の避難訓練を実施している。消防署、役場、地域住民の方にも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応を心掛けながらケアを行っている。特に言葉かけには注意しているが十分で無い時もあるため、注意し努力していきたいと思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞き、出来る限り自己決定や支援が出来るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日々の流れは決まっているが、心身の状況や、その日の体調に応じた個別対応をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ない方にはスタッフがその人らしいコーディネートを考え支援している。2ヶ月に1回は訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には業者に委託しているが、週に1回は利用者に食べたいメニューを聞き、リクエストに答えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ食やトロミの活用など個々にあわせた食事の支援を行っている。水分は食事以外にもこまめにとってもらえるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口腔ケアを行っている。出来ない方にはスタッフが介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を把握し、声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、出来るだけ食事や水分で対応できるよう取り組んでいるが、便秘のひどい方には薬を使つてのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴日は決まっているがその日の状態や気分に応じて、別の日でも本人の希望により入浴出来る様にしている。夜間浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせ、何時でも休息や入眠が出来るようにしている。室温や環境にも配慮し安心感を持ってもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ずつのケースに分けて管理している。状態や処方内容に変化があった場合は業務日誌に記載し周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、お膳拭きなど主婦をしていた経験を活かし、役割をもってやっていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事では戸外へ出掛けられる様計画を立てている。また、買い物や散歩などを行ったり、家族の協力を得て、いつでも外出や外泊が出来るように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、希望に応じて買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話が出来るようにしている。手紙やはがきなどのやり取りも何時でも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置している。ホールにはイベント時に撮った写真を貼ったり、花を飾ったりして居心地よく過ごしてもらるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には長椅子を設置し、いつでも気軽に誰とでも過ごせるような空間づくりを提供出来るよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビなどを自由にもちこんでいただき、その人らしい居心地のいい部屋作りになるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど見て分かる工夫をしている。環境整備にも努め、安全面の工夫に取り組んでいる。		